

■川北小学校の実践

(1) 研究内容

「豊かな心を育む」ことや「好ましい人間関係の構築」に向けて、基本的人権の尊重と共に、あいさつを基盤とした基本的生活習慣や態度の育成に取り組む。

(2) 学習活動を通して育てたい力

- ・自分や友達の良さを認め、お互いにその個性を発揮し、仲よく助け合い、思いやりのある心を育む力。
- ・コミュニケーション力を向上させ、他との関わりを大切にする姿。

(3) 実践の内容

【実践①】「JICA研修員との交流」について（3～6年）

○ねらい

- ・日本のことを調べ、紹介する活動を通して、日本の良さに気付く。
- ・異なった文化に対して興味や関心をもつ。
- ・研修員との交流を通して、外国の人や文化に関わる。

○学習内容

- ・3、4年：南米からの研修員との交流を通して、日本文化の紹介や歌の披露を行った。
- ・5、6年：事前に日本文化に関してテーマ学習を行い、研修員さんに分かりやすく説明したり、体験してもらったりする中で、日本文化を伝える活動を行った。研修員さんからは、自国の紹介をしてもらい、楽しい雰囲気の中で文化交流を行った。



【実践②】「障がいのある人々と共に」について（5年）

○ねらい

- ・お互いを認め合い助け合う明るく住みよい社会を築くための態度や実践力を身に付ける。

○学習内容

- ・点字サークルの方をお招きし、点字キットを使って点字体験活動を行った。点字についての理解を深め、実際に点字を作成するという貴重な体験を通して、点字の仕組みに気付くことができた。また、作成した点字を読んでもらうという体験を通して、障がいのある人への理解を深めることができた。
- ・北海道盲導犬協会の方をお招きし、盲導犬についての理解を深めたり、実際にアイマスクを装着して盲導犬と一緒に歩いたりという貴重な体験をすることができた。盲導犬が育成される過程や現状についての説明を受け、様々な任務を果たす盲導犬の姿に子どもたちは感動していた。



【実践③】「アイヌの人たちの生活と文化」について（４年）

○ねらい

- ・アイヌ文化や歴史にふれ、交流・体験活動を通して関心を高める。

○学習内容

- ・出前授業としてアイヌ教育相談員光野智子さんをお招きし、アイヌ文化についての理解を深めることができた。アイヌ文化の講話やムックリの演奏体験活動、アイヌ民族衣服の着衣体験、アイヌ文様切り絵作り体験という貴重な体験を通して、アイヌ民族の歴史や文化への関心を高めることができた。



【実践④】「異学年交流（なかよしタイム）」の実施について（全学年）

○ねらい

- ・昨年度の学校反省から、子どもたち同士の関わりが薄いのではという指摘があった。今年度は、異学年交流を通して、子どもたち同士が日常的に触れ合う姿を目指す。

○学習内容

- ・顔合わせによるグループ名の相談に始まり、グループ旗づくり、給食交流（２回）、中休みの遊び等６年生のリーダーを中心に計画的に活動できた。お互いにメンバーの名前を覚え合い、日常的に声を掛け合う場面が見られるなど、交流の輪が広がってきている。

（４）成果と課題

① 成果

- ・JICA研修員をはじめ来校された方々は、事前の準備等も十分になされ、子どもたちが意欲をもって取り組み、興味関心を高めることができた。様々な立場の人たちとの交流を通して、異文化に触れあおうとする態度や優しい気持ちをもって人と接することの大切さに気付くようになった。点字体験学習では、点字の学習セットを購入し実習作業を円滑に進めることに役立った。言葉や行動で伝えることの大切さや心を込めたあいさつの重要性に気付くようになった。異学年交流（ふれあいタイム）を年間計画に位置付け、日常の交流を意識して計画的に取り組んだ。

② 課題

- ・様々な人たちとの関わりが、地域の方との交流にも生かせるように見通しをもった活動計画が必要である。（今年度は、老人会[むつみ会]）との交流が実現できなかった。次年度は、日程等調整して実行したい。）道徳教育をさらに推進し、子ども同士の関わりを重視した取組や命を大切にする指導を今年度以上に推進していきたい。